

# 第2回ワーキング部会 A. こども・学校 ワークシート

## 課題解決のための施策・アイデア

### 取り組む課題

親の経験、子どもの  
を豊かにする

子どもの話 (views)  
を聴く

子どもの権利を  
おとなも子ども  
知る・学ぶ・実行  
(実現)

### 誰が

おとな 地域

地域の  
人

オンブズ  
パーソン

CAP  
スペシャリスト

子どもの  
居場所

人権  
教育

プログラ  
提供

NPO

### 何のために/何を

多様な人  
の交流の  
場を創出  
する

親も  
多様な子  
童に  
触れる

親子  
リカー

子どもが  
自分の責任  
自由に遊ぶ

公園に  
常駐する  
子ども見守り

おうちの  
しんどさを  
きく

子どもの  
声を  
届ける

権利侵害  
に  
気づく

交流の  
場を  
つくる

将来を  
自分で考え  
る

大人と子供の  
持つ時間を  
増やす

自己決定  
の  
力を  
養う

### どうする

いろいろな  
行事を行う

押し付け  
な  
取り返し

様々な経験  
の場の提供

ご意見書  
の  
作成

チェックリスト  
↓  
自己判断

飲食イベント  
交流会  
(講演会など)

地域の  
おせかい  
MAP

余裕  
が  
ある

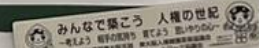
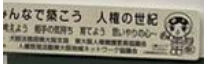
子どもの  
けんり  
の本

養成  
講座

子どもの  
権利  
制度

働き  
掛け

子ども  
1人  
の  
心  
を  
支  
える



## <グループ発表>

3つ選びました。

◆1 親の経験、子どもの経験を豊かにする

◆2 子どもの話(声／views)を聴く

(※言語だけではなく、態度・行動なども含めて)

◆3 子どもの権利を大人も子どもも知る・学ぶ・実行(実現)

この課題に取り組むためのアイデアはなかなか難しかった。

◆1 親の経験、子どもの経験を豊かにする

子どもがいろいろな価値観の大人に出会えるような場所を考える、つくる。そこで親も、多様な子どもの姿に触れて、自分の凝り固まった価値観だけではなく、大人と子どもが接する時間を増やすことにつながる。それは、将来、子どもが自己決定をしていくために。

「どうする」が本当に難しかったのですが、『いろんな行事をする』とか、これは子どもの権利にも関わってくるけど『親が自分自身を自己採点するチェックリストをつくる』とか。

『飲食をともなう交流会』のような場所は少ない。飲みニケーションと言ったりもするが、会議の後の打ち上げの方が、話ができるので、そういう場所をつくる。

◆2 子どもの話(声／views)を聴く

子どもの声を聴くのは、地域の人。私が CAP スペシャリストなので、CAP の話をした。

◆1・2 共通

プレイパークという、自分の責任で子どもが自由に遊ぶ公園をいろんな NPO が運営していて、実際に日本にたくさんある。そういうところに「子どもの遊びを大事にする」プレイワーカーが常駐している。公園に子どもを見守る人がいるというのは、子どもの声を聴き、経験を豊かにするのにいいのではないかな。

「地域のおせっかいさん MAP をつくる」とか、やはり余裕があるので「余裕をつくる」ためにどうするか、ということを考えないといけない。

◆3 子どもの権利を大人も子どもも知る・学ぶ・実行(実現)

すごく難しかった。『子どもの権利』とか『子どもの権利条約』があることを、「あなたには権利があるよ」とどう子どもに伝えていくか。そう扱われるのが1番ですが、「大人が子どもの絵本を読みに行く」とか『子どもの権利マスター制度』をつくって、養成講座で勉強をするという研修の組み立てで、そこに来てもらうというのが本当に難しい。八尾市のいろんなお店にスポンサーになってもらって、『権利マスター』は美味しいお店でランチやディナーが食べられますよ、というところでまた交流が生まれるというのはいかがでしょうか。

# 第2回ワーキング部会 A. こども・学校 ワークシート

取り組む課題

人権学習の充実

学校と地域の連携

無知無理解  
違いを受け入れない

課題解決のための施策・アイデア

誰が

何のために/何を

どうする

学校

教師

家庭科の授業で

保護者

子ども

子ども(自分)のために

人権感覚の育ち

サミット  
(スガツキ)

人権

八尾市

教育委員会

地域の人が

学校・PTA  
共同企画

ベトナムなど  
外国ルーツの方

校区自治会

正しく  
知る

出会いの場を  
演出する

多様性を  
知る

多文化共生

ネットワークの  
構築

人材確保

正しく  
身につける

石井イサ  
の  
充実

参加の  
ハードルを下げる

親子  
社会  
宿題

親子で

参加できる  
研修

人権学習に  
取り組む  
人材を増やす

人件費  
(予算)

予算を増やす

人も  
ふやす  
(教職)

(本とお作)の  
体験と  
合わせる

移動型

笑ひ学館  
博物館  
(資源と集める)

八尾市(2)の  
人権センター  
つくる

地域FW

施設運営  
タイミングで  
入れこめる!!

食の交流

<グループ発表>

2班の取り組む課題は、学校などで取り組む ◆人権学習の充実 と、その人権学習を行うための ◆学校と地域の連携 になりました。

#### ◆人権学習の充実

学校や教員ができることは、「何のために／何を」と言われたら「人権感覚を育むため」だと思います。では、学校でできることは「人権学習をどう進めていくか」。そこには人材もいるから確保しなくてはならない。どういうふうに(人権感覚を)正しく身につけていくのか。

「ネットワークの構築」と書いたのは、学校毎に人権学習はしていますが、例えば「誰を呼んだ」、「どんな学習をしたのか」、「こんな内容だった」という情報交換がなかなか上手くできていないので、こういったネットワークの構築は学校でできることだと思います。

市や教育委員会にお願いしたいのは「予算」の話になりました。予算がないと、子どもたちに出会わせたい人にも出会えないので、(予算確保)できたらいいな、との話になりました。

#### ◆学校と地域の連携

やはり地域との連携は大事だけど、大人の凝り固まった考え方をどう変えていくのか。でもそれは難しいから、今から大人になる子どもたちをどう変えていくか。

研修の話も出たが、以前にも話したように「正しく学べる場」をどう設定するか。ここでいっぱい出てきたのが、外国にルーツのある方や障がいのある方は八尾市にもいっぱいいるので、その方々と交流することで、その人たちのことや国の文化を正しく知ることで、比べるのではなく違いを豊かさに捉えてもらいた

い、という話になりました。「出会いの場を設定する」「料理教室を設定する」も似ている。

あとは博物館。かなりお金のかかることですが、研修に出て行くとなると時間や場所の問題もあるので、博物館をつくって「そこに行ったら学べる」というのはどうか。あとは地域のフィールドワークで学んでもいいかとの話にもなりました。以上です。